

令和 元 年度

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100586	
法人名	株式会社 愛誠会	
事業所名	はなまるホーム甲府山宮	
所在地	山梨県 甲府市 山宮町2904	
自己評価作成日	令和 元年 12月 31日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和2年2月12日(水)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・明るく温かみのある雰囲気。 ・午前午後のアクティビティー。 ・毎月利用者様が楽しんで頂けるようなイベントの企画計画実施。 ・イベントの楽しい様子をご家族様等にお伝え出来るような、はなまる通信配布。 ・家庭的な美味しいお食事や楽しいイベント食事。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は甲府市北西部の住宅地にあり高台からの景観も良く、周囲には神社、スーパーマーケット、病院、薬局、学校、郵便局等があり利便性の良い環境にある。木造2階建ての1階と2階の2ユニットである。開所2年半が経過し、自治会に加入し、子ども神輿の休憩所として場所を提供する等利用者が地域の一員として豊かに生活できる取組をしている。事業主体である(株)愛誠会は医療・福祉事業を展開しており「誠実な気持ちで他者を愛する」を社是とし企業理念を実践している。昨年12月からは「自立支援」を促す取り組みに重点を置き、食事、排泄、入浴、体力維持等生活のあらゆる場面で、利用者が持っている力を発揮したり、維持できるように取り組んでいる。また、はなまる通信の発行で家族に情報提供している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 はなまるホーム甲府山宮

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念の一つとして掲げており管理者及び職員はその理念を共有し運営、実践を行っている。	企業理念の一つとして掲げており管理者及び職員はその理念を共有し運営、実践を行っている。	事業主体である(株)愛誠会の社は「誠実な気持ちで他者を愛する」に基づき、企業理念を掲げている。入職時に理念の小冊子が配布され、職員は携帯している。また、事業所内の要所に掲示し、支援に反映するよう努めている。昨年12月から「自立支援」が会社の方針となり、利用者の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会のご協力にてお祭りのお神輿等をお披露目に来て頂き子供会の方にお菓子を配ったりし地域の一員として協力している。	自治会のご協力にてお祭りのお神輿等をお披露目に来て頂き子供会の方にお菓子を配ったりし地域の一員として協力している。	自治会に加入し、回覧版を回したり、祭りの子ども神輿の休憩所に事業所を提供したり、近所を散歩して住民の方と挨拶する等交流の機会はある。事業所の季節行事や防災訓練等とおしてさらに交流ができるように検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られた方等に認知症の理解や支援の行い方などお伝えすることによって活かしている。	見学に来られた方等に認知症の理解や支援の行い方などお伝えすることによって活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に一度開催し、業務報告や話し合いを行い、その中で頂いたご意見・助言等をサービスの向上に繋げている。	運営推進会議を2か月に一度開催し、業務報告や話し合いを行い、その中で頂いたご意見・助言等をサービスの向上に繋げている。	会議は2か月に1回、第3水曜日の午後1時半から2時頃まで開催。家族、自治会役員、民生委員、地域包括支援センター職員、ケアマネージャー、管理者、職員等が出席し報告や意見交換を行っている。昨年からは元消防士の方が講師となり、水害も含めた災害や避難誘導に関わる学習をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからないことなどがあれば甲府市長寿支援室介護保険課各担当にお伺いし、助言や指示等の協力をうけ運営を行っている。	わからないことなどがあれば甲府市長寿支援室介護保険課各担当にお伺いし、助言や指示等の協力をうけ運営を行っている。	運営推進会議の議事録を持参し直接説明している。その他、書類作成や入居状況等で助言を受けたり、相談もしている。介護保健課より介護相談員の派遣を依頼し、スケジュールに沿って来所している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適性化のための委員会を3か月に一度開催し、話し合いや研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適性化のための委員会を3か月に一度開催し、話し合いや研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適性化委員会はエリアマネージャー、管理者、ケアマネージャー、職員等で構成し、3か月に1回開催している。全体会議では研修会を実施し、特にスピーチロック、ユマニチュード等に配慮した支援を実践している。ユニット毎の出入り口の施錠方法についても職員間で協議検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待研修を本社が定期的に行っており虐待防止について学び事業所で虐待が発生しないように防止に努めている。	虐待研修を本社が定期的に行っており虐待防止について学び事業所で虐待が発生しないように防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様について居宅ケアマネ様、病院ソーシャルワーカー、施設ケアマネ、施設長にて協議行った経緯ありその時は制度は活用するまでもないとの判断を行った。今後もそのような案件があれば活用できると判断に達したら活用し支援を行っていく。	利用者様について居宅ケアマネ様、病院ソーシャルワーカー、施設ケアマネ、施設長にて協議行った経緯ありその時は制度は活用するまでもないとの判断を行った。今後もそのような案件があれば活用できると判断に達したら活用し支援を行っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前からご家族様には分かりやすく施設での生活の行い方等の説明を行い疑問に思うことは質問して頂き納得されてからご契約を再度しっかり説明を行いながらご納得を頂き行っている。	契約前からご家族様には分かりやすく施設での生活の行い方等の説明を行い疑問に思うことは質問して頂き納得されてからご契約を再度しっかり説明を行いながらご納得を頂き行っている。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果		事業所名	はなまるホーム甲府山宮		〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕	
自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			ユニット名 (1階)	ユニット名 (2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様の要望や意見は可能な限り受け止め対応し要望や意見のあった利用者様、ご家族様に対応した結果まで説明し運営に反映させて頂いている。	利用者様、ご家族様の要望や意見は可能な限り受け止め対応し要望や意見のあった利用者様、ご家族様に対応した結果まで説明し運営に反映させて頂いている。	面会時に家族と話す機会はあるが、来所出来ない場合も電話でやり取りしている。来訪者や家族が話し易い環境づくりを心掛け、職員は担当制で利用者や家族との関係づくりに努めている。病院の通院支援の相談に対応したり、居室の湿度管理の改善を実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアー会議等で職員に考えや意見を出し合ってもらい決まったことを実施し実施した結果を再度会議で話し合い反映させている。	フロアー会議等で職員に考えや意見を出し合ってもらい決まったことを実施し実施した結果を再度会議で話し合い反映させている。	管理者は職員が勤務や業務上の相談をしたり、意見や要望を聴く機会を持っている。ユニット毎のフロアー会議では職員の意見や提案等を出し合い検討し、利用者の支援に繋げている。職員の意見に応じて、浴槽内の椅子やバスボードを購入し入浴の環境を整えた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者として職員が働きやすい環境を提供出来るように適宜改善や聞き取りを行っている。	管理者として職員が働きやすい環境を提供出来るように適宜改善や聞き取りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には可能な限り職員には参加して頂きスキルアップに努めてもらうようにしている。	研修には可能な限り職員には参加して頂きスキルアップに努めてもらうようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者として同業者の集まりや研修講習に参加し交流をする機会を作っている今後は職員も同業者の交流の場に参加して頂き刺激を受けサービスの向上が上がっていくようにしていく。	管理者として同業者の集まりや研修講習に参加し交流をする機会を作っている今後は職員も同業者の交流の場に参加して頂き刺激を受けサービスの向上が上がっていくようにしていく。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない利用者様には要望やお話を聞きながら不安な所を和らげていくよう初期段階は安心して頂けるような関係作りを職員は努めている。	入居間もない利用者様には要望やお話を聞きながら不安な所を和らげていくよう初期段階は安心して頂けるような関係作りを職員は努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の見学段階からご家族様にはお困りごとやどのように生活をして欲しいか等のお話をたくさん聞かせて頂きそれに対して提案を行いご理解を頂いている、またお会いするたびにお話を重ね良い関係作りを努めている。	最初の見学段階からご家族様にはお困りごとやどのように生活をして欲しいか等のお話をたくさん聞かせて頂きそれに対して提案を行いご理解を頂いている、またお会いするたびにお話を重ね良い関係作りを努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お困りごとをご家族様に聞き取りすることも行うが、どのようにホームで過ごしてほしいかを深く聞き取り出来る能力有する力で行えることを考えそこにまず必要な支援を見極めそれをご家族様に提案し対応をおこなっている。	お困りごとをご家族様に聞き取りすることも行うが、どのようにホームで過ごしてほしいかを深く聞き取り出来る能力有する力で行えることを考えそこにまず必要な支援を見極めそれをご家族様に提案し対応をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを奪わない一緒に出来るところは行って頂く出来ないところは支援を行っていくを職員間で統一してケアとし共有することによって暮らしを共にする関係性を築いている。	出来ることを奪わない一緒に出来るところは行って頂く出来ないところは支援を行っていくを職員間で統一してケアとし共有することによって暮らしを共にする関係性を築いている。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 はなまるホーム甲府山宮

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご見学の段階から当ホームの考え方としてご家族のご協力を前提に施設の職員と一緒に支援を行い利用者様が良い生活が行えるようにしていくことを言い方は適切ではないかもしれませんがご家族も巻き込んだケアを説明しご理解頂いたご家族様がご入居を決めて頂いている。	ご見学の段階から当ホームの考え方としてご家族のご協力を前提に施設の職員と一緒に支援を行い利用者様が良い生活が行えるようにしていくことを言い方は適切ではないかもしれませんがご家族も巻き込んだケアを説明しご理解頂いたご家族様がご入居を決めて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人に関しては事前にご家族様にご確認をとり問題なければ来訪して頂いている場所に関しては時期や感染症などを考慮しご家族対応にてお出かけされている。	ご友人に関しては事前にご家族様にご確認をとり問題なければ来訪して頂いている場所に関しては時期や感染症などを考慮しご家族対応にてお出かけされている。	利用者の友人から外出の相談があり、家族にも確認を取った上で、面会を受け入れたり、利用者の希望で外出支援をしている。うどん店やケーキ屋、墓参り、年末・年始の外泊等家族や職員が協力して、利用者の希望に沿えるように、入居前の関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わりのある、支え合えるような支援に努めている	利用者様利用者様のお世話をやいて下さったりお手伝いされること多くみられる職員は怪我やトラブルに注意しながら関係性をとりもち支援を行っている。	利用者様利用者様のお世話をやいて下さったりお手伝いされること多くみられる職員は怪我やトラブルに注意しながら関係性をとりもち支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	全ての方ではないが契約が終了してからもご連絡があったり野菜などお持ちになられるご家族様おられ色々お話をしたり聞いたり関係が続いている。	全ての方ではないが契約が終了してからもご連絡があったり野菜などお持ちになられるご家族様おられ色々お話をしたり聞いたり関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を受け止めリスクも考え可能な限りの対応や代替えの提案をご本人にお話をして検討おこなう。	希望や意向を受け止めリスクも考え可能な限りの対応や代替えの提案をご本人にお話をして検討おこなう。	言葉で思いや意向を伝える方が多いので、日頃からの会話やしぐさ、家族からの情報をもとに利用者一人ひとりの思いを把握している。内容によっては、本人、家族、職員を交えて検討し、希望に沿えるように協議し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等を把握し利用者様同士の会話の中に入り利用者様同士の関係を繋いだり、生活環境ではペットの起き上がりの習慣などもとらえベッド向きなどに反映したり利用者様が長年の生活で動きやすい起居動作や配置などに繋げている。	生活歴等を把握し利用者様同士の会話の中に入り利用者様同士の関係を繋いだり、生活環境ではペットの起き上がりの習慣などもとらえベッド向きなどに反映したり利用者様が長年の生活で動きやすい起居動作や配置などに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の性格やADL、認知症の状態も把握し一日の生活動作の安全の確保や安楽な過ごし方が行える様努めている。	利用者様の性格やADL、認知症の状態も把握し一日の生活動作の安全の確保や安楽な過ごし方が行える様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月会議の中で適宜カンファレンスをおこない、利用者様の現状に即した介護計画書を見直しや作成をおこなっている。	毎月会議の中で適宜カンファレンスをおこない、利用者様の現状に即した介護計画書を見直しや作成をおこなっている。	入居にあたり本人、家族、ケアマネージャー、関係者等から聴き取り、暫定プランを作成。一か月後、日頃の本人の様子や想いを職員の記録や情報でモニタリングしながら随時見直す。変更がない場合は、本人・家族の同意を得た上で3か月でフォロー会議を行ないカンファレンス後、本プランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別に介護記録を記入し変調や変わったことがあれば引き継ぎ共有し見直しに役立っている。	日々個別に介護記録を記入し変調や変わったことがあれば引き継ぎ共有し見直しに役立っている。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果		事業所名	はなまるホーム甲府山宮		〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズが出た場合柔軟に対応している。	新しいニーズが出た場合柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来る範囲で行えることを支援し暮らしを楽しんで頂けるよう努める。	出来る範囲で行えることを支援し暮らしを楽しんで頂けるよう努める。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診時ご家族の要望もお伝えしながら医師との関係性を保ちつつ医療が受けられるよう努めている。	往診時ご家族の要望もお伝えしながら医師との関係性を保ちつつ医療が受けられるよう努めている。	全員の利用者が月2回(第1、第3火曜日)協力医の訪問診療を受けている。毎週水曜日は訪問看護の訪問・毎週木曜日には歯科の訪問診療がある。その他の専門医受診は家族が対応している。訪問診療時に医師とともに薬局の薬剤師も立ち会い利用者の状況を共有し、密に連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護時看護師に伝え対応して頂いている。	訪問看護時看護師に伝え対応して頂いている。		
32		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院Drや病院相談員にお話を伺い対応行っている。	病院Drや病院相談員にお話を伺い対応行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で往診Drよりお話がありご家族様と話し合いの機会を作り3者で今後の方針を共有しケアを行った。	早い段階で往診Drよりお話がありご家族様と話し合いの機会を作り3者で今後の方針を共有しケアを行った。	入居時に重度化や終末期についての説明をしている。医療面でのケアが必要になった場合は事業所で出来る事と困難な事等について説明し、利用者のケアについて家族、医師、事業所で協議し方針を決めるようにしている。今後も看取りの研修やマニュアル等の見直しをし、内容を検討していく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応については救急車対応などは職員にて経験もある応急手当に関してはホームで行ったことがまだない	初期対応については救急車対応などは職員にて経験もある応急手当に関してはホームで行ったことがまだない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練の実施をおこなっているまた今後自治会消防団との災害時の対応について連携を取っていく予定	年に2回の避難訓練の実施をおこなっているまた今後自治会消防団との災害時の対応について連携を取っていく予定	年2回避難訓練を行い、夜間想定訓練も1回実施している。地震、火災訓練を行って自治会の消防団が消火訓練を指導してくれる。水害については、高台にある為移動しない方が良いとの指導があった。地域の訓練への参加や避難所としての協力体制等は運営推進会議で協議する課題となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションを取りながら気分を害さない言葉かけや話し方を行い、出来ていない方には適宜指導行う。	コミュニケーションを取りながら気分を害さない言葉かけや話し方を行い、出来ていない方には適宜指導行う。	利用者とのコミュニケーションを大切にしている。言葉使いや誘導の仕方等相手の気分を害さないように丁寧に接するようにしている。トイレ誘導や入室の際に適切に声を掛けたりノックすることを実践しているが管理者が気付いた時は助言している。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 はなまるホーム甲府山宮

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	更衣の際や飲み物のお尋ねる等、ご自身で判断が出来るような声掛けを行い自身で決めることが出来るように努めている。	更衣の際や飲み物のお尋ねる等、ご自身で判断が出来るような声掛けを行い自身で決めることが出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日どのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員によっては余裕が無く出来ない方もいる、余裕をもって勤務できる環境や職員への声掛けを行い個人のペースを尊重した支援を行えるよう体制を整えていく。	職員によっては余裕が無く出来ない方もいる、余裕をもって勤務できる環境や職員への声掛けを行い個人のペースを尊重した支援を行えるよう体制を整えていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や外出予定時など気をつけて支援行っている。	整容や外出予定時など気をつけて支援行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、配膳下膳など手伝って下さる入居者様がおりに適宜一緒に行っている。	食事の準備、配膳下膳など手伝って下さる入居者様がおりに適宜一緒に行っている。	献立はその都度決め家庭的なメニューになっている。食材購入はネットスーパーの宅配を利用し、不足の物は買いに行く。皮むき、配膳、片付け等職員と一緒に利用者がいて、食事の準備を楽しみにしている。食材は細く刻まず、柔らかく調理し、目で楽しめる食事内容となる様な配慮がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の摂取量・食事のメニューについては日誌に記入している、水分摂取量の確認を行い水分摂取が少ない方には声掛けをし飲水を促している。	水分の摂取量・食事のメニューについては日誌に記入している、水分摂取量の確認を行い水分摂取が少ない方には声掛けをし飲水を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身で出来る方でも口腔ケア後確認させて頂き、磨き残し等チェック行っている。	自身で出来る方でも口腔ケア後確認させて頂き、磨き残し等チェック行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在検討中の方がおり可能な時は2名介助を行い便秘時や排便時に対応を行っている。	現在検討中の方がおり可能な時は3名介助を行い便秘時や排便時に対応を行っている。	半数以上の利用者が自立した排泄をしている。他の利用者はリハビリパンツやバットを使用している。必要に応じて、排泄チェック表で排尿や排便のリズムを把握している。自立支援の取り組みとして、退院時紙オムツだった利用者をリハビリパンツに切り替え、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に合わせた予防に取り組んでいる	薬剤師と連携をとり指示を頂いたり職員同士で排便状況確認にしや薬剤師に確認を行い対応している	薬剤師と連携をとり指示を頂いたり職員同士で排便状況確認にしや薬剤師に確認を行い対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は余裕をもって1日に3人を目処で行っている都合ではなくスケジュールを組んで行っている	入浴は余裕をもって1日に4人を目処で行っている都合ではなくスケジュールを組んで行っている	全員が、週2回は入浴できるように支援している。拒否する場合は、気分を変えたり、タイミングをみて入浴できるように支援している。好みのシャンプーを使ったり、入浴剤等で入浴を楽しんでいる。浴槽内の椅子やバスボードを購入し、安心して入浴できる環境が整っている。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 はなまるホーム甲府山宮

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい入居者様を必要以上に起こしておくことは無くお休み頂いている。	休みたい入居者様を必要以上に起こしておくことは無くお休み頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師からのバックアップ体制が整っており、服薬支援においてもお薬のセット段階からトリプルチェックを行うなど薬の管理についても万全を期している、服薬後の症状の変化についても変化があれば担当医だけではなく、薬剤師にも確認を取っている。	薬剤師からのバックアップ体制が整っており、服薬支援においてもお薬のセット段階からトリプルチェックを行うなど薬の管理についても万全を期している、服薬後の症状の変化についても変化があれば担当医だけではなく、薬剤師にも確認を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活でお手伝いをお願いする、好きなテレビをみたり音楽を聴いたりと個々で楽しみごとや気分転換も行っている、皆さんと一緒にすることが好きな利用者様が多い。	日々の生活でお手伝いをお願いする、好きなテレビをみたり音楽を聴いたりと個々で楽しみごとや気分転換も行っている、皆さんと一緒にすることが好きな利用者様が多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族のご協力のもと外出や外泊されている、それ以外で天気や時期を考慮し外出のイベントも少数でわけて行う計画を實施している。	ご家族のご協力のもと外出や外泊されている、それ以外で天気や時期を考慮し外出のイベントも少数でわけて行う計画を實施している。	天気が良い日は事業所の周辺を散歩する。利用者の希望に応じて、桜、桃、コスモス等の花見に出かけたり、小グループで初詣したり、2か月に1回の外食レクリエーションの後にドライブを楽しむ機会もある。事業所の夏祭りには家族の参加もあり楽しんでる。家族との外出時には外食することもあり利用者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所では金銭のお預かりはしていない為、個々の買物に関しては金銭を所持することが少ない、品物を選んだりすることを楽しまれることは出来る。	事業所では金銭のお預かりはしていない為、個々の買物に関しては金銭を所持することが少ない、品物を選んだりすることを楽しまれることは出来る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけるのが難しいため、こちらからご家族様に了承を得たうえで電話をかけてお話し頂くことが多い、お手紙を頂いた際は返信できるよう支援を行う。	電話をかけるのが難しいため、こちらからご家族様に了承を得たうえで電話をかけてお話し頂くことが多い、お手紙を頂いた際は返信できるよう支援を行う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に刺激が強いものがなく混乱もない、日当たりがよく「今日もいい天気だね」と穏やかに環境的には落ち着いている。	特に刺激が強いものがなく混乱もない、日当たりがよく「今日もいい天気だね」と穏やかに環境的には落ち着いている。	木道で暖かい感じがする室内や廊下は明るく、特に2階のフロアは富士山が良く見え景観が良い。壁面には手作りのカレンダーや利用者の制作した作品が飾られ、リビングには大きなテレビや花の鉢が置かれている。共用のトイレは2か所あり広く清潔に保たれている。浴室入口には温泉マークがあり、浴室内に手すりも多く、浴槽も入り易い工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では気の合った利用者様同士で過ごされている、座席位置については試行錯誤を重ねている。	共用空間では気の合った利用者様同士で過ごされている、座席位置については試行錯誤を重ねている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのものなどをご家族様にお持ち頂いている、ベッドの向きに関しては今までの起居動作を伺い同じ向きで起きられるようにセットしている。	居室には馴染みのものなどをご家族様にお持ち頂いている、ベッドの向きに関しては今までの起居動作を伺い同じ向きで起きられるようにセットしている。	居室にはエアコン、ベッド、換気扇、クローゼット、カーテン、フック用の支柱が取り付けられている。家族写真や色紙、使い慣れた椅子やタンス、テレビ等が置かれている。利用者のそれまでの生活に出来るだけ変化がないように、ベッドの方向や寝具にも配慮し、その人らしい生活を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるように札を設置したり、居室のドアに氏名を掲示し居室を分かりやすくしたり、床にラインを引いたりなど工夫を行っている。	トイレの場所が分かるように札を設置したり、居室のドアに氏名を掲示し居室を分かりやすくしたり、床にラインを引いたりなど工夫を行っている。		